

令和 8 年度 国・県に対する要望事項



写真提供：国土交通省東北地方整備局秋田港湾事務所



写真提供：国土交通省東北地方整備局能代河川国道事務所

令和 7 年 6 月

当市の行政運営に対しまして、日ごろより格別のご配慮をいただき、厚くお礼申し上げます。

さて、昨年度の要望につきましては、能代港を活用した地域振興等にご尽力いただき誠にありがとうございます。

当市では、第2次能代市総合計画におけるまちづくりの基本理念に「幸福共創」を掲げ、優れた地域資源を十分に活用し、“こころ”、“からだ”、“もの”の3つの豊かさを実感できるふるさと能代実現のため、各種施策を推進しているところであります。

人口減少、少子高齢化が進行する中でも、特色ある資源を最大限に活かし、地域の誇りと生活基盤を将来へ引き継いでいくため、「子どもを生み育てやすい環境づくり」、「働く環境の向上と人材の確保」、「地域の特色を活かした産業のさらなる振興」を重点的かつ横断的に取り組んでいくこととしております。

この要望事項は、能代港や高速道路等の社会基盤を最大限に活かし、当市が目指す「エネルギーのまちづくり」等と組み合わせ、新たな産業と雇用の創出につなげる上で大変重要な事項であり、これらの実現により能代が^よ能く^か代わり、元気な秋田になるものと確信しております。

何卒、当市の事情をご賢察いただき、令和8年度の予算編成及び今後の施策展開に取り入れてくださるようよろしくお願い申し上げます。

令和7年6月

能代市長 齊 藤 滋 宣

要 望 事 項 一 覧

1. 日本海沿岸東北自動車道の早期完成について ……〔 継 続 〕
2. 県営能代工業団地排水機場の改修に係る財政支援について ……〔 新 規 〕
3. 県営能代工業団地の渋滞対策について ……〔 継 続 〕
4. 旧能代西高等学校用地における県営新産業団地整備について ……〔 継 続 〕
5. 洋上風力発電拠点化促進等のための能代港の機能強化について ……〔 継 続 〕

日本海沿岸東北自動車道の早期完成について

日本海沿岸東北自動車道二ツ井白神 I C から大館能代空港 I C 間の整備については、早期に高速交通ネットワーク形成が図られるよう、平成 24 年度より事業着手された「二ツ井今泉道路」の整備促進を図り、早期の全線開通に向けて引き続き要望します。

また、洋上風力発電拠点化の整備が進められている能代港の利活用促進と県北地域の経済の更なる発展に向け、令和 2 年度より事業化となった種梅入口交差点の立体化、3 年度より事業化となった荷上場地区交差点改良について進捗を図り、道路の速達性や定時性、安全性の確保を可能とする整備を要望します。



県営能代工業団地排水機場の改修に係る財政支援について

県営能代工業団地排水機場は、同団地内にある調整池と合わせて活用することで、降雨時における団地内の事業所及び道路の浸水被害を防ぐとともに、檜山川への排水量を調整し、同河川の氾濫を抑制する重要な役割を果たしております。

本排水機場は、県が能代工業団地造成事業の一環として昭和58年に整備し、同年に当市へ無償譲渡されて以来、市で管理を行い必要に応じて建物及び設備の修繕等を行ってまいりました。

本排水機場は、設置から42年が経過し、建物の老朽化が著しい上、耐震基準も満たしていないことから、今後は建物の在り方を含めた検討が必要となるほか、ポンプ設備は耐用年数の10～15年の3倍近く経過しており、故障により停止する事案がたびたび発生しているため、7年度においては2基設置しているポンプ両基とも稼働できる状態を維持するための修繕を実施する予定であります。今後、大規模な故障がいつ発生してもおかしくない状況にあるため、できるだけ早い時期に設備の改修が必要不可欠と考えております。

加えて、近年、県内各地で頻発している豪雨による浸水被害への対策は喫緊の課題となっている中、令和9年1月には中国木材株式会社のバイオマス発電所が稼働予定で、大量の水を使用して排水するため、排水能力の維持が必要であり、ポンプ施設の改修は急務であります。

しかしながら、当市の財政状況を鑑みると市単独事業として整備することは極めて厳しい状況にあり、また、本排水機場は県営能代工業団地の維持管理に要する施設であり、同団地内の工場等が県内経済の振興に大きな役割を果たしていることをご勘案いただき、以下の事項について県からお力添えを賜りますようお願い申し上げます。

1. 県営能代工業団地排水機場の改修に係る財政支援

〔 継 続 〕

産業労働部 産業集積課

建設部 道路課

県営能代工業団地の渋滞対策について

県営能代工業団地は、昭和53年の分譲開始以来、工場等の立地が進んでまいりました。

平成18年には、日本海沿岸東北自動車道能代東インターチェンジが開通し、その後も県北地域での高速道の整備が進んだことに伴い、アクセス環境が大幅に向上し、盛んに工場等の新設・増設が行われております。

令和6年1月には中国木材株式会社能代工場が稼働し、能代工業団地内の就業者数は1,000人を超え、現在、同団地では朝夕の通勤時間帯において団地内及び周辺道路で渋滞が発生している状況にあります。

将来的には同工場でさらに従業員を増やすとともに、今後、団地内企業の増設の動きもあり、通勤車両や原木輸送トラック、製品を出荷する車両、団地内で半製品を運搬する車両等が増加し、団地内及び周辺の国道や県道でこれまで以上に渋滞の深刻化が予想され、団地内や地域から懸念の声が高まってきております。

こうしたことから、令和6年度には秋田県北部エリア渋滞対策検討ワーキンググループにおいて、能代工業団地周辺の将来交通状況も踏まえた検討を開始しております。本市といたしましては、同団地周辺の交通混雑解消と安全確保のため、国・秋田県・市が連携して渋滞対策を進めていくことが重要と考えておりますので、以下の事項について引き続きご指導とお力添えを賜りますようお願い申し上げます。

1. 県営能代工業団地周辺における将来を見据えた渋滞対策の検討及び早期着手

旧能代西高等学校用地における県営新産業団地整備について

国において、2050年カーボンニュートラルが宣言され、企業の社会的責任として脱炭素経営に取り組むことが重要となるため、CO₂フリー電力のニーズはさらに高まると見込まれます。

こうした中、秋田県では、令和8年度に分譲予定の県営秋田市下新城地区工業団地において、再生可能エネルギーの供給について先進的に検討が進められていると伺っております。

本市においても、秋田県により旧能代西高等学校用地に再生可能エネルギーの活用を見据えた新たな産業団地を整備して分譲する方針が示され、今年度は団地化に向けた基本設計等の予算を措置していただきました。

能代市は、風力発電をはじめとした再生可能エネルギー導入の先進地として注目されており、また、中国木材株式会社では1万キロワット級のバイオマス発電所を整備する予定であります。近隣の再生可能エネルギーを活用し、新産業団地への電力供給体制の構築を実現すれば、地域共生の先進的なモデルとなり、全国での再生可能エネルギー導入拡大に寄与し、ひいては脱炭素社会の実現に大きく貢献できるものと考えます。加えて、企業における脱炭素の取組を支援でき、付加価値の高い産業拠点として、地域における経済と環境の好循環を生み、地方創生にもつながると期待できます。

新産業団地の基幹インフラでもあるアクセス道路の整備や団地内における用水の供給については、市が主体となって取り組むこととしておりますが、同団地の排水、隣接の民有地確保、同団地への再生可能エネルギーの供給等については、秋田県と連携を図りながら進めてまいりたいと考えておりますので、下記事項について、ご指導とお力添えを賜りますようお願い申し上げます。

1. 旧能代西高等学校用地の県営新産業団地整備促進と連携強化
2. 同団地における再生可能エネルギーの供給体制の構築
3. 地域の核となる企業誘致の促進と連携強化

洋上風力発電拠点化促進等のための能代港の機能強化について

本市では、能代港を中心とした洋上風力発電の拠点形成を目指し、取組を進めております。その第一歩として、国からは能代港地耐力強化に関する事業を実施していただき、令和6年7月完工を迎え、翌年2月に完成式典が本市にて開催されました。また、県からは大森ふ頭用地造成事業を実施していただいております。機能強化された能代港が、十二分に活用されることで、国が目指す2050年カーボンニュートラルの実現の鍵となる再生可能エネルギーの主力電源化に大きく貢献するものと考えます。

今後、更なる沖合での着床式洋上風力発電の導入、その先の浮体式の導入を見据えると、港湾の重要性がますます高まっていると認識しており、能代港がその役割を担うことで、後背地を含めた拠点形成が図られ、本地域及び県全体の活性化につながることを期待されます。

また、電力の安定供給に重要な役割を担う能代火力発電所において、石炭運搬大型船の航行安全、安全な荷役、安定した物流を確保するため、港内静穏度の向上及び水域施設の水深確保が必要不可欠であります。

さらには、令和6年1月に操業を開始した国内最大手の製材会社である中国木材株式会社、能代港を活用した製品等の輸送を検討しているほか、大森地区では港湾としての利便性を高めるため、小型船だまりの移設及び埋め立ての準備が進むなど、能代港が持つポテンシャルがさらに高まってきております。

他方、世界的にクルーズ需要が高まり、受け入れをする港湾周辺の地域活性化が大いに期待されることから、観光メニューづくりや誘致活動に地域が連携して取り組んでいるところです。本年7月には、「能代の花火」に合わせクルーズ船が能代港へ入港する予定となっており、県との連携のもと、クルーズ船の寄港数増加を目指し、更なる誘致活動を図ってまいります。

今後も本地域が一丸となって、能代港を中心とした県北地域の発展に取り組んでまいりますので、下記事項について、ご指導とお力添えを賜りますようお願い申し上げます。

1. 洋上風力発電の拠点化実現への支援

- ・機能強化された能代港が最大限活用されるための取組に向けた支援
- ・中長期的な視点に立った風力発電設備の大型化・プロジェクトの大規模化と将来の浮体式洋上風力発電を見越した港湾機能の強化

2. 港湾の機能強化と利便性向上

- ・小型船だまり移設計画の早期完了と移転後の大森地区船だまりの埋立着手
- ・港湾利活用企業のニーズに応じた岸壁やふ頭の整備、港内静穏度の向上等の機能強化
- ・公共耐震岸壁整備への着手

3. クルーズ船誘致のための環境整備

- ・ 大型クルーズ船対応岸壁の整備